

<報道発表資料>

2017年9月1日

富士山測候所は 8 月 31 日に閉所し、62 日間にわたる夏期観測活動を終了しました

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会は、8 月 31 日（木）11:18 に富士山測候所の商用電源を遮断・閉所しました。10 周年（11 年目）の夏期観測となった今年は、62 日間の観測期間に延べ 377 人が参加し、これまで最多の 28 プロジェクトを実施しました。

NPO 法人富士山測候所を活用する会は、気象庁から富士山測候所庁舎の一部を借り受け、毎年 7 月・8 月に公募で選ばれたグループの研究・活用に提供しています。2007 年に研究・活用を開始して丸 10 年、11 回目となった今年は、28 事業（継続 18 事業、新規 10 事業）と、過去最多のプロジェクト数となりました。延べ利用者数は対前年比 18%減の 377 名となっていますが、継続プロジェクトのアクティビティはむしろ向上していることから、観測・研究の効率化が大幅に進んでいることが示されています。

研究内容からみると、①新規のプロジェクトが約 3 分の 1 を占めて測候所の活用分野が更に拡大、②夏の観測だけにとどまらず通年無人観測を継続する研究が 5 件もあり“第 2 次越冬観測ブーム”の到来、③噴火など火山活動に伴って発生する二酸化硫黄のリアルタイムモニタリング、宝永山火口での観測、高所での噴火監視など富士山噴火に備えた防災関連の研究、④通信技術を利用して登山者の動きを可視化することにより人の安全を確保する大規模プロジェクトとの連携、⑤高所医学研究の 2 年ぶりの参加、などが特筆されます。

受託事業では、「富士山頂における一酸化炭素、オゾン、二酸化硫黄の夏季の長期測定」（新技術振興渡辺記念会受託事業）、助成事業では「富士山麓の森林環境に及ぼす越境輸送微粒子の現状把握」（粟井英朗環境財団助成事業）、「富士山測候所の被雷対策による温室効果ガス常時観測の実現」（トヨタ環境活動助成事業）、「富士山頂から地球環境問題の最先端を学ぶプロジェクト」（東京ガス環境おうえん基金）のほか、本 NPO 自主事業として「自由対流圏における水銀挙動の究明」を実施しました。

夏期観測の研究成果については、10 月から HP 上で順次速報するほか、2018 年 3 月開催予定の第 11 回成果報告会で発表する予定となっています。また、2017 年 11 月 6 日から 10 日まで当 NPO 法人主催で開催する「山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウム(ACPM2017)」でもこれまでの成果を発表する予定です。

